編集後記
――大隠は市に隠る，凡人は…――

17世紀のアムステルダムは，東洋貿易の拠点及び世界金融市場の中心として繁栄し，宗教・思想に比較的寛容なオランダにはヨーロッパ各地から商人・知識人が集まった（1602年にオランダ東インド会社設立，1609年に平戸オランダ商館開設や現在のニューヨーク発見―1664年にニューアムステルダムがニューヨークに変わる）。「よく隠れしものこそ，よく生きしなり」を座右の銘とするデカルトは，ドイツの炉部屋でモラルの格率を定めた後，再び旅に出てオランダに隠れ住む場所を求める。バルザック宛の手紙で，「私のいるこの大都会にあっては，商売を営まぬものとては私を除いて一人もなく，各人は全く自分の利益に気を取られていて，私は一生の間，決して誰の目にも触れずにここにいることができそうです」と言ってアムステルダムほかを転々としたようである（ルネ・デカルト『方法序説』（山田弘明訳・2010年・ちくま学芸文庫）161頁～162頁，232頁の注108を参照）。まことに「大隠は市に隠る」である。

静かに住むなら信州もいい。深山幽谷が此処にはある。「木曽路はすべて山の中」（島崎藤村）にあり，木曽川・天竜川は太平洋へ，梓川・犀川は千曲川と合流し信濃川となって日本海へと滔々流れ込む。川端康成・井上靖・東山魁夷は，安曇野を「残したい静けさと美しさ」と讃えた。長野県の人口密度が156.32人で全国38位（2014年「都道府県人口・面積・人口密度ランキング」HP 参照）も納得である。

翻って，昨今の世界人口密度を見ると，オランダは404.28人（186か国中13位），日本は336.96人（19位），アメリカ32.20人（138位），ロシア8.36人（173位），モンゴルは1.85人（186位）となっている（2013「年世界の人口密度ランキング」HP 参照）。世界でいうと長野県の人口密度はガンビア166.09人（47位）に次ぐ48位に相当し上位25～26％に入る混み具合となる。にもかかわらず，信州は，「残したい静けさと美しさ」を確かに実感させる。多少の喧騒は自然の中に吸収されてしまうからだろう。

私のような凡人も俗事に心乱されず超然と生きたいと思う。隠れ家は騒がし過ぎず静か過ぎず人目に付かない信州が良い。向こう三軒両隣も程々でいい。此処の方丈の庵で損得や妥協を考えずひたすら思索に没頭できる（何十年何百年先？に一つの真理に出会うかも知れない）という楽しみもある。

Ⓖ

次号より，本論集の編集作業は，法曹法務研究科と経済学部との共同で実施される予定である。

（紀要・研究委員会／紀要関係チーム）